

平成30年度 第2回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針
及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

- 1 審議会名.....平成30年度第2回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会.....
- 2 日 時.....平成30年9月25日(火).....午後1時30分から午後3時40分まで.....
- 3 会 場.....本庁舎 3階 共用会議室306.....
- 4 出席者.....栗田会長、細川副会長、磯野副会長、重野委員、山田(直)委員、大澤(克)委員、吉田委員、浅見委員、青柳委員、小澤委員、西澤委員、望月委員.....
- 5 市側出席者.....宮澤市民生活部長、小林地域づくり課長、山田地域づくり課長補佐兼まちづくり推進係長、金子まちづくり推進係主査、土屋地域おこし協力隊.....
- 6 公開・非公開の別.....公開.....
- 7 傍聴人.....1人.....記者.....1人.....
- 8 会議概要作成年月日.....平成30年10月9日.....

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 報告事項
 - ①本年度庁内で実施されている個別協働事業について
- (4) 協議事項
 - ①第2次「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」(素案)について
 - ②その他
- (5) 閉会

2 会議事項概要

- (1) 開会 (進行：副会長)
- (2) あいさつ (会長)
- (3) 報告事項
 - ①本年度庁内で実施されている個別協働事業について

【事務局】

 - ・本年度各部署で実施している協働事業について情報提供を依頼し、27の事業について報告があった。
 - ・各事業は年度末に実施主体双方で自己評価を行う。また、協働事例集としてまとめ、周知する。

【会長】

 - ・委員より質問等あればお願いしたい。(特になし)
- (4) 協議事項
 - ①第2次「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」(以下、「第2次計画」という。)(素案)について

※事務局より、第2次計画(素案)について概要と第1次計画との変更点について説明。

【会長】

- ・事務局より説明をいただいた。まず、素案の2ページから15ページまでの内容について委員よりご意見をもらいたい。

【委員】

- ・14ページ。質問になるが、協働コーディネーターと地域リーダーは協働事業の中でどのような役割を果たされたのか。また、研修にはどのように募集をかけているのか。実際に活動の際にはボランティアで活動されているのか。

【事務局】

- ・協働コーディネーター養成講座修了者には市民活動サポートセンターの運営に携わっていただいている。修了者の中から手を挙げられた3名にコーディネーターとして採用し交代で常駐いただき、他の修了者でご協力いただける方は、市民活動サポーターとして市民活動団体等の取材を行っていただき情報収集に努めていただいている。
- ・地域リーダーは、当初は市で設置したまちづくり推進会議に参画をいただこうと考えていた。しかし、会議に提起される課題が非常に大きくすぐにリーダーとして活躍していただくことは難しいことから、フォローアップ研修を行いながら、今後の活動の場を見出していきたいと考えている。

【会長】

- ・地域リーダーのフォローアップの内容はどのようなものか。

【事務局】

- ・昨年度市区長会で開催された地域を考える研究集会で、ワークショップのファシリテーター役を担っていただいた。

【委員】

- ・地域リーダーは非常にハードルが高いため、手を挙げる方がいないのではないかと。

【事務局】

- ・座学だけで認定とするのは難しいため、途中で修了という形へ変更した。

【委員】

- ・それぞれ修了者は何人いるのか。

【事務局】

- ・協働コーディネーター養成講座は28名、地域リーダー育成講座は26名が修了した。

【会長】

- ・地域リーダーについては今後実用する目途はあるのか。名称を変えることがあっても良いのではないかと。

【事務局】

- ・講座では必要な能力の全てを習得できないことから、経験を積んでいただくことが重要と考えている。

【委員】

- ・地域で実際にリーダーを担っている方を公募したらどうか。

【事務局】

- ・講座の一番のねらいは区を中心とした地域の課題の中で、区長をサポートする方を育てていきたいということがあった。フォローアップ研修を行う中で地域の中で活躍できる人材を育成できればと考えている。良い提案があればお願いしたい。

【会長】

- ・能力はあっても外部の方であれば受け入れる側との調整が難しいのではないかと。

【事務局】

- ・そのため、まちづくり推進会議へ参画していただき、地域の課題を確認する中で、そこに参画している関係団体の皆さんとつながりをもってもらえるような流れを作っていきたいと考えていた。市区長会とも連携し、地域リーダーが地域で活躍できる仕組みを検討していきたい。

【委員】

- ・地域リーダーは最初からリーダーとして入っていくのではなく、地域のお手伝い、区長のサポートで十分ではないか。それしかできないと思う。

【会長】

- ・「リーダー」と言うとハードルが高いので、「サポーター」などと名称を変えることで地域でも受け入れやすいのではないか。

【委員】

- ・地域リーダーは何年であろうが座学でできるものではない。例えば1つの団体を運営するという実践の機会があっても良いと思う。
- ・座学ならまちづくり講座として学びたい方が学べる窓口、生涯学習として常設しておくことは必要。

【委員】

- ・実践者を講座の講師とすれば良いのではないか。

【委員】

- ・これから区の役員などになる方を区から推薦していただき、講習を受けて育てていくような仕組みがあると良いのではないか。

【事務局】

- ・具体的なご提案もいただいたので、第2次計画の施策に反映できるものは反映させていきたい。

【会長】

- ・計画について、まちづくりを「協働」とひとくくりにすることで市民には非常にわかりにくい。例えば協働のまちづくりの中身として「市民活動支援」など各論的なものを前面に出した方が、何をしているのかわかりやすい。
- ・この計画自体は市民へ切り口を変えることを要求していると思われる。「協働」という抽象的なものを前面に出すのではなく、こちらからわかりやすい切り口に変えて提示してあげればさらに理解が進むのではないか。

【事務局】

- ・その辺を含めて第1次とは変えてみた。

【委員】

- ・協働は特別なことではなく身近なことであることを、やわらかくわかりやすく色々な機会に耳に入るようにしていけば理解してもらえるのではないか。
- ・人材を発掘し育成するという視点が重要。人材を発掘するような情報収集も大切。

【会長】

- ・内容一つひとつは易しいが、文章の構造が易しくない。自分がどこを見たらよいのかわからない。

【委員】

- ・協働のために何かやらなければいけないのか、と理解する市民も見受けられる。協働のための事業はない。事業があって初めて協働が大事であることがわかる。その誤解の無いよう、例えば、「協働は、みんなが主役のまちづくり」ではなく、「協働で、みんなが主役のまちづくり」とするなど、タイトルを見直すことも必要ではないか。

【委員】

- ・日々の生活も全てが協働。実践している方に経験を話していただきながら、これが協働ですよと地道に理解を促していく取り組みが必要。

【会長】

- ・素案はまちづくりの共通項を出していて、共通項に含まれている個々の分野は自分たちで想像するしかできない。共通項にまとめてしまうのではなく、個々の分野、例え

ば第1章を市民活動の支援、第2章を防災や防犯、などと前面に出し、その下に施策を盛り込んだ方が市民からすればわかりやすいのではないか。

【委員】

- ・読んでいくと難しく感じるころはあるが、分野別になるとあまりにも細かすぎて逆に難しくなるのではないか。

【会長】

- ・実際に計画の中で扱われているほとんどの分野は市民活動のサポートである。

【委員】

- ・市民一人ひとりである。

【会長】

- ・そこまで分けなくても市民活動のサポートだと言えば十分わかる。

【事務局】

- ・協働は全ての分野に関わるので、分野ごとにすると全て網羅できるのか、落ちてしまうところはないのかという不安もある。
- ・これは市の計画であり、協働を進めていくために必要なことをどう推進していくかということであるため、それが市民の皆さんによりわかりやすいような形で示すとするならば、現在の構成の中で例えば情報の点では「なぜ情報が必要なのか」ということも入れていくということではどうか。

【会長】

- ・最初に渡されたときにもう良いとなってしまうればそれで終わりになってしまう。素案自体の説得力というか、これだけを見た時に市民がどこまでわかるのか、市民に勉強してくださいということになってしまうのではないか。

【委員】

- ・理論も大事だが、市民が色々な活動に参加して、人と人がつながり、その中でお互いに高め合うものが基盤にないと、それはその地域には生きていかない。
- ・市民はある意味素人である。明科では数年かけて明科をどうしていこうかと職員と一緒に話し合うことができるようになった。行政が羅針盤となって方向性を示してもらえたことで、市民と行政が一体となって進めていくということはどういうことかとかわかった。それによって、予期していなかった成果が出てきた。
- ・今回、27の協働事業の報告があったが、収集しきれていない事業、特に教育の分野などの事業があるのではないか。その辺を分析し、活かしていくことが大事な視点。

【委員】

- ・「協働」という言葉自体が一般的には使われていない。市民から見ると、一般の方が使っていない言葉を出しておきながら、市は市民にまちづくりを押し付けていると受け取る方もいるのではないか。タイトルの表現は検討する余地があるのではないか。
- ・市民活動サポートセンターは、計画のPDCAサイクルの中でどう関与するのか。

【事務局】

- ・市民活動サポートセンターは実際に現場で推進していく立場である。

【委員】

- ・この計画を誰に向けて読んでもらうのか、対象者をどこに置くかの視点で考えると内容が変わる部分もあるのではないか。

【事務局】

- ・協働の主体の一番目に市民と書かれている。これからは一人ひとりが意識をもっていくことが大切である。自治基本条例でも謳っているが、協働はまずは一人ひとりができることを行い、できないことをお互いで補い合っていくところであるため、すぐに誰かと手を組みましようということではないという意味を込めて、第1次ではこのよう

なタイトルとなった。色々なご意見をいただく中で、市民にとってどういうタイトルが一番心に届くのかを含めて再検討させていただく。

【会長】

- ・次に15ページから20ページまでのところでご意見をお願いしたい。

【委員】

- ・実施体制が明確になったのは大きく変わった点かと思う。市民活動サポートセンターが取り組む内容が多くあるが、センターが取り組めるようにどうしていくかについてはあまり触れられていない。判断はできないが、指針に書いてあった方が良いのか、どうなのか、という点は気になる。

【事務局】

- ・第1次計画でも所々でセンターが主体とした施策が出されており、後半の推進体制でもセンターの役割が出ていた。そのため、これを体制の一つとして前面に出していこうと第2次計画では考えた。
- ・実は市民活動サポートセンターの役割はこれまでと変わっていない。明記されていなかっただけである。行動要領で具体的に示した方が良いことなどあれば、盛り込んでいきたいのでご意見をいただきたい。

【委員】

- ・20ページで協働の「原則」と言われると協働するのが億劫になってしまう感覚を受けると。「大切なこと」とすれば入りやすい。
- ・16ページの「ヒト、モノ、コト、カネ・・・」とカタカナで書かれると無機質で寂しく感じる。言葉の表記も大事。
- ・19ページの協働の領域の図だが、重なる部分がわかりにくい。

【事務局】

- ・20ページについては、市の計画で協働を進めていく一つの基本的な部分が必要である。言い方など市民の皆さんにわかりやすくできるところは直す。
- ・16ページは変更する。
- ・19ページの図は表現の問題であるため、研究する。

【委員】

- ・若い方などにも見ていただけるよう、イラストなどを入れたらどうか。
- ・19ページの図は全て関連してつながっている図であると感じている。

【委員】

- ・協働について漫画的に示したらどうか。

【事務局】

- ・イラストを入れながら見た感じでわかるように工夫したい。

【会長】

- ・次に21ページから28ページについてご意見をいただきたい。

【委員】

- ・26ページの具体的施策（1）行動要領の3つ目であるが、「コーディネート」を「支援」に直した方が良い。

【委員】

- ・同ページの具体的施策（2）行動要領の3つ目であるが、地区公民館に限ることではないので、「地区公民館において」を除いて良い。
- ・25ページの具体的施策（1）の行動要領に、「市民活動に関わる相談に応じ、的確に対応できる相談窓口の強化を図ります。」を追加し、市民活動サポートセンターに行政職員のOBなど精通した方を配置するなど、体制を厚くしていただきたい。
- ・24ページ、具体的施策（1）の行動要領の3つ目の実施体制に2を加えてほしい。

【委員】

- ・市民活動サポートセンターの利用者数を把握していたら教えていただきたい。

【事務局】

- ・現在は延べ人数で月100人から200人程度である。

【委員】

- ・25ページの理解度の向上について、研修会等に参加する方は関心のある方がほとんどなので、一般の方の理解度を向上するための施策が必要だと思う。

【委員】

- ・一般の方が情報をキャッチできることが大切。ホームページに掲載されていても自分から見に行く必要がある。日常生活の中で目に触れられるよう、発信の方法を工夫してはどうか。例えば、塩尻では情報誌をカラーにし、コンビニやスーパーに設置したら目にしてもらえる機会が増えた。
- ・情報収集の施策は充実しているが、かなりの労力で大変である。せっかく集めた情報を見てもらえなければもったいないので、発信に労力を使ってもらえるよう考慮してもらえば良いかと思う。

【委員】

- ・情報発信については、秘書広報課で実施したアンケートの結果をベースに変わった点はあるのか。

【事務局】

- ・把握していないが、具体的な動きがあればお伝えさせていただく。

【委員】

- ・市民が平等に情報を受け取れるようお願いしたい。

【委員】

- ・情報発信は口コミの力が大きい。

【委員】

- ・基本方針2の「協働の意識づくり」がこれからの時代一番大事なことである。
- ・市民が納得し、理解し、行動に移せる中身にしていくことが大切。

【委員】

- ・22ページの具体的施策（1）の行動要領8つ目、ここで言う「教育機関」は、地区公民館まで含めているのか。含めていないのであれば漏れてしまう。
- ・同7つ目、「ボランティア団体」はボランティア連絡協議会を想定するが、市社協とは別団体。地区社協を含め位置づけを確認し、表記に間違いがないようお願いしたい。

【事務局】

- ・第1次計画より、第2次計画でも、「教育機関」は「小・中学校、高等学校、大学」を指しており、「地区公民館」及び「地区社協」は「区など自治会」に含めている。

【委員】

- ・23ページ、具体的施策（3）「実践の場に関する情報収集」について、「実践の場の確保に関する情報収集」に変えてはどうか。
- ・27ページ、具体的施策（3）に行動要領に、「区等とNPO等のテーマ型組織が協働のパートナーとなるようなマッチングの機会をつくります。」を追加してはどうか。
- ・28ページ、具体的施策（1）について、人財バンクの「設置に努めます。」とあるが、これは必要なことであるため、「設置します。」へ修正してはどうか。

【委員】

- ・「人財バンク」のシステムは、生涯学習課で実施している「生涯学習リーダーバンク」が既にあるため、すぐに実施できると考える。ただし、実際の利用率はどうか。

【会長】

- ・29ページ以降についてご意見をいただきたい。

【委員】

- ・36ページの図の上段で「区など自治会」を真ん中に置いた方が自然。

【委員】

- ・38ページで協働コーディネーターと地域リーダーの説明があるが、両方とも「役割を担います」に統一した方が良い。

【委員】

- ・この計画をどう市民に理解してもらうか、実施主体の区として、「協働」を理解してもらうための行動をしていかなければならないと感じている。
- ・アンケートから協働が必要であることはわかっているけれども具体的な理解が進んでいないというギャップをどう埋めていくかが課題となる。
- ・「協働」という言葉の理解が進まない中で、同じような意味で「新しい公共」という言葉を出すと、混在してよりわかりにくくなることを心配する。

②その他

【事務局】

- ・忌憚のないご意見をいただいた。切り口を変えていくというご意見もあったが、これまで委員会でも基本的に第1次計画に基づいて修正を加えていくという方向性で進めてきた。
- ・市民の皆さんによりわかりやすく、協働の理解をいただきながら活動につなげていくことをテーマに、この素案を基本に修正を加えていくことでどうか。（異議なし）
- ・場合によっては次回までに委員の皆さんと何回かやりとりをさせていただく。気づいた点があれば、随時ご連絡をいただきたい。

(5) 閉会

【会長】

- ・以上で全ての議事を終了とする。

【副会長】

- ・平成30年度第2回協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり行動計画策定・評価委員会を閉会します。熱心なご協議、ありがとうございました。